

水系1液高耐候性反応硬化型ウレタン塗料

DIA ダイヤ ビフレッシュウレタン艶消し

特長

- ウレタン結合により耐久性に優れた塗膜を形成します。
- 調合の手間や可使時間の制限のない1液反応硬化タイプです。
- 落ち着いた風合いの艶消し塗料です。

標準施工仕様

工程	材料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間		
					工程内	工程間	
1	下地調整	(1)素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。 (2)素地のpH10以下、水分10%以下で施工して下さい。 (3)雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。 (4)脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。 (5)チョーキングは、脆弱部をサンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。 (6)PCパネル、現場打ちコンクリートの場合: ①豆板、木コン、破損箇所、不陸などは、ダイヤセメントフィラー、セメンシャス#2000、セメンシャス#2500、リマール#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。 ②表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤガンコシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用下さい。 (7)ALCパネルの場合: ①ダイヤカチオンフィラーを塗布して下さい。 (8)窯業系サイディングボードの場合: ①全面にダイヤシーラーエポまたはガンコシーラーによる下地調整が必要です。 (9)吹付面周辺は、汚れや損傷を与えないように養生紙や養生テープ等で完全養生して下さい。					
2	下塗り	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.2kg/m ² 75~150m ² /缶	1	—	2時間以上
3	上塗り	ダイヤビフレッシュウレタン艶消し 清 水	16kg 0.3~1.6%	0.20~0.30kg/m ² 53~80m ² /缶	2	2時間以上	—

* 間隔時間は、温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなりの差異がありますので注意して下さい。
* 下地の吸い込みが著しい場合は、下塗りを2回塗りして下さい。

ダイヤビフレツシュウレタン艶消し

試験成績表

試験項目	品質基準	試験成績	試験方法
容器の中での状態	かき混ぜた時、堅いかたまりがなく一様になること。	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.4
塗装作業性	エアレス・ローラーブラシ・刷毛による塗装作業に支障がないこと	異常なし	自社試験法
低温安定性	-5℃に冷やしても変質しないこと。	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.6
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であること。	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.8
乾燥時間	23℃ : 2時間以内	40分	JIS K 5663 : 2003 7.7
	5℃ : 4時間以内	90分	
隠ぺい率	93%以上	97%	JIS K 5663 : 2003 7.9
耐水性	4日間浸した時、塗面に異常がないこと	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.10
耐アルカリ性	2日間浸した時、塗面に異常がないこと	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.11
耐洗浄性	500回の洗浄に耐えること	10000回異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.12
促進耐候性	照射時間300時間で塗膜に割れ・はがれ・膨れがなく、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないこと	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.13 ※主材には複層塗材REを用いた。
屋外暴露	12ヶ月の試験で塗膜に割れ、はがれ・膨れ及び穴がなく、色変化の程度が見本品に比べて大きくないこと	異常なし	JIS K 5663 : 2003 7.14
鏡面光沢度	8%以下	7%	JIS K 5600 : 1999 4-7
防カビ性	28日後カビの発生が認められないこと	認められない	防カビ試験 (自社法)
防藻性	28日後藻の発生が認められないこと	認められない	防藻試験 (自社法)

施工・保管上の注意点

【塗装面の調整 (新設)】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下 (pH10以下) になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 - 1) 豆板、木コシ、破損箇所、不陸などは、セメントファイバー、セメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
 - 2) 表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤガンコーサー又は、ダイヤシーラーエボをご使用して下さい。

⑤ALC/パネルの場合

ダイヤカチオンファイラーを塗布して下さい。

【塗装面の調整 (新設・改修共通)】

- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整 (改修)】

- ①各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理 (ケレン、清掃、高圧水洗浄) などを行って下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開封した材料は必ず密閉し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨 (雪) 養生をして下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りません。成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残ります。
- ④乾燥時間は、温度、湿度、および風等により差異を生じます。
- ⑤コーンプレッサを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
- ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。

- ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- ⑨本施工に入る前に試験塗りを行い、施工のタイムアップ、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
- ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らない場合があります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合は少なめに希釈して下さい。
- ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑭塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑮フラスコや樹脂系などの副資材塗装処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄りの営業所へご相談下さい。
- ⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くこすると色が取れる場合があります。
- ⑲下地の吸込みムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
- ⑳シーラーと上塗りとの混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
- ㉑上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
- ㉒既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗後ダイヤガンコーサーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。

【安全衛生上の注意】

- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようになり、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ②取扱後は、手洗い及びうがいを行って下さい。
- ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
- ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切った後は、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

【その他】

- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
- ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書等をご確認下さい。
- ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート (SDS) をご確認下さい。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイヤフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

(24.4月現在) 24.04.100 SJ